

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

洪水のごとく続く大型公募増資をどう見るべきか

このままでは日本の株式市場は、世界から相手にされなくなるのでは、と感じてしまいます。既存株主の迷惑を顧みない、大型の公募増資が続いているからです。この増資がどうして悪いかといいますと、既存の株主の持分は大幅に減少し、しかも株価は大きく下落し、増える株式による配当負担に耐えかね、減配までする企業があるからです。

たとえば、国際石油開発帝石は40%近い希薄化を伴う株式を8月に発行し、4月には70万円を超えていた株価は、現在40万円そこそこ、早くも公募価格割れとなっています。

東京電力が10月払い込みで、最大5500億円の公募増資を実施すると発表しています。この発表によりまして、株価は9月24日の2350円から2000円そこそこまで暴落しました。東京電力の株をもっている人にとっては、たまったものではありません。公募と同時に減配もうわさされています。

このように一流の企業が既存株主のことを考えない公募増資を行いますと、いつ公募増資をするかと心配で、おちおちと株が買えないということになってしまいます。外人投資家が既存株主を考えない市場からは遠ざかり、新興国などの成長機会を求めて、日本を離れる動きもあります。

どうしてこういう状況になるかということですが、証券会社の収益競争が背景にあるとよいでしょう。

証券会社は、株式市場の不振で、収益悪化が鮮明となり、増資引き受けの手数料収入は数少ない貴重な収益源になっています。



特に野村証券は、昨年半年間で89%も希薄化を伴う公募増資を自ら行ったのですが、これが先鞭となり、公募増資が続いたことが読み取れます。

野村証券の2007年3月期の配当は44円だったのですが、今期配当見込みは8円です。そして倍近くに増えた株式数のため、おいそれと増配もままならないのです。2007年には2600円までいった株価は10月1日402円です。

このような周りの迷惑を顧みない公募増資を行いますと、ますます日本の株式市場が疲弊し、自らの首を絞めることになるということに証券会社は、早く気づいてほしいものです。

検察の資料改ざん事件に思う

ついに、検察の長年隠された恥部が、世間にさらされたという感がします。これまでも、多くの点で検察は危ういと見られる面がありました。たとえば、

- ・大衆迎合的に、事件を取り上げる。
- ・シナリオに沿って、取調べ調書が作られる。
- ・マスコミを情報操作して、自分たちの有利な流れ・世論を作る。
- ・起訴のために、手段を選ばない。



今回の捜査資料改ざんとその隠蔽事件は、氷山の一角です。検察の上から下まで、大変根が深い問題です。この種の行為は、大阪特捜だけではなくと見たほうが妥当でしょう。

特捜部の解体だけでは不十分ですし、最高検察庁の捜査では、身内の処理に終わってしまいます。長年の膿を出すためには、外部による徹底的な調査・検証が必要です。

しかしながら、いまの日本の情勢では、特捜部の解体すらできないのではないかと危惧します。それだけの浄化作用が働く社会システムには、なっていないと感じるからです。

今月の言葉

健康さはすべての外的価値をはるかに凌ぐ意義があるために、おそらく健康な乞食のほうが病める王よりも幸せであろう。

-ショーペンハウアー



・BFSのミッションは、お客様とパートナーになり、正しく客観的なプランニングとお客様資産の運用を通じて、お客様を人生のゴール達成に導くことです。

・BFSは、金融機関とは完全に独立して、お客様利益最優先の公正なアドバイスを提供しています。

・BFSは、最新で高度な理論や知識、30年以上のグローバルな豊富な経験、強い倫理観で最高品質のサービスを提供しています。

・資産運用サービスやライフプランニング、BFSについてもっと詳しく知りたい方は、左記までお問合せください。

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

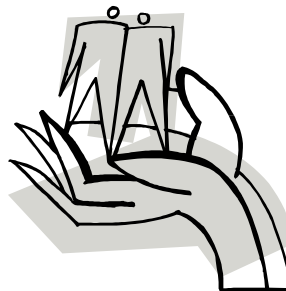
電話：03-6721-8386

携帯：090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール：info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを—BFSの大切な役割



高齢者向け住まいには、さまざまな選択岐と注意点が

団塊の世代が退職し、今後ますます高齢化社会に進んでいく中、高齢者向け住まいへのニーズが高まってきています。

安価で入居できる特別養護老人ホームは入所待機者が約42万人いて、数年待ちの狭き門です。そこで、現在民間の高齢者用住まいが、さまざまなタイプで提供されています。終の棲家ともなるであろうそれらの施設を選ぶ時は、提供されるサービスについてよく知っておく必要があります。いざという時にほしいサービスが受けられないということになると、それに対処する精神的・肉体的負担は大きなものになります。

民間が提供する高齢者向け住まい

・高齢者専用賃貸住宅
さまざまなバリアフリー設計が行き届き、一定水準を満たす物件については、介護保険により各種介護サービスを受けられる。

・住宅型有料老人ホーム
介護サービスは外部の訪問介護などの在宅サービスが利用可能。

・介護付有料老人ホーム

介護サービスはその施設が実施する介護サービスを受けることができる。

・健康型有料老人ホーム
介護が必要になると退去する必要あり。

・ケア付分譲マンション(所有権型)
一般の分譲マンションと同様に、数千円程度の費用が必要になる。入院、要介護度が進んだ場合など、退去する条件がつく場合がある。

また、その施設の入居者構成、交流度合い、プライバシーの確保、食事内容や頻度、施設のアクセス度合い、介護スタッフの充実度、医療機関との連携、施設の経営状態など、慎重に検討する必要があります。一週間程度の体験入居もよいでしょう。

さらに大事なことは予算との兼ね合いです。一時金で数千万円支払う必要があるところもあり、またその後の管理費、食事費用などキャッシュフロー面のチェックも必要です。

引越しや施設の選択など労力と時間がかかりますから、元気うちに実行することも賢い選択といえるでしょう。

☆☆☆「人生を安心して生きるための金融資産運用セミナー」開催☆☆☆

第1回 2010年10月30日(土)午後3時～午後5時

金融機関から完全独立のFPが「本当の資産運用とは」を徹底解説！

～参加無料～

このセミナーでは、バブル崩壊の前と後の30年以上の経験と資産運用分野でグローバルスタンダードの最高資格を持つ講師だからこそ語ることのできる

「こうすれば人生を安心して生きれる資産運用法」を

セミナーに参加された方だけに

【無料】でお伝えします。

◆老後や家族のために、失敗しないお金の運用方法がわかる ◆

日本の将来が不透明で先行き大丈夫かという不安がつつの中、自分や配偶者の老後や家族の将来に心配はないか、一人で考えあぐねていても解決の糸口は見つかりません。

証券会社や銀行に相談しても、本当に役に立つ情報は提供してくれない、自分たちに実入りのいい商品ばかり出してくると感じることはありませんか？金融機関から完全独立で、お客様の利益を最優先に考えるびとうファイナンシャルサービスだからこそ、お話できることがあります。一度しかない人生、家族とともに豊かさゆとりをもって生きていくためには、大切な老後の資産運用で失敗はできません。

30年以上の経験と高度な資格をもつFP・資産運用アドバイザー、尾藤 峰男が「本当の資産運用とは」を徹底解説します。参加申し込みは、限定10名です。土曜の午後のひと時、アットホームな雰囲気、心ゆくまで本当の資産運用の世界にひたってみませんか？

日時：2010年10月30日(土)15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームA(日比谷帝劇ビル地下1階)

アクセス：<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(地下鉄B3出口から入るとわかりやすいです。)

限定 10名

参加料 無料

お申し込みは、Telまたはメールにて、お名前と連絡先をお知らせください。

Tel: 03-6721-8386

メール info@bfsc.jp